

02.『泉の中でエルフさんに尻コキされながら…』

[とある深い森の中で…]

ふふ…エルフという種族のこのようなふるまい、やはり意外に思われますか？

無理もありません…。

古くからわれわれ一族は、外界との関わりを断って、生きてきましたから。

世の表舞台からは姿を消して、今はとぎばなしに残るばかり…。

旅人様は、どうしてこの森にいらっしゃったのですか？

…そうでしたか。迷い込まれて、偶然に…。

ふふ、おそらくはそうであろうと、思っておりました。

ここは別名、帰らずの森。

あえて訪れようとする方など、めったにいるものではありませんから。

…旅人様。わたくしは…。

…ふふ。いいえ。

どうぞ手を、お取りになって…？

泉の真ん中まで、歩きましょうか。

大丈夫。この泉は、わたくしの腰までしかありませんから。

ゆっくりと、そう…。

右足、左足…。

右足、左足…。

[二人が泉を歩く水音]

くつふふ…水草が足の裏を撫でて、少しくすぐったいですね。

冷たくって、心地いい…。

歩くたびにみなもが揺れて、朝の優しいこもれびが、キラキラと反射して。

すうー…はあー…。水の、いい匂い…。

…ふふ。

お気に召しましたか？わたくしの、髪の匂い。

よろしいですよ…？

わたくしの髪にお鼻をうずめて、そのままゆっくりと深呼吸なさって。

さあ、どうぞ…吸って…吐いて…。

森の匂い…クチナシの匂い？女の子の香り…でございますか？

えへへ…そのようなことを言っていただいたのは、わたくし初めてです。

うれしい…。

[腹がごぼ、と鳴るかすかな音]

んっ…やだ。水の冷たさにつつかれて、どうやら降りてきたようです…。

いきますね…？

ん…。

[水のなかでそっとおならをする音] (03分22秒~)

ふー…。

えへへ、水の中でしました。

すん、すん…。

やっぱり、くさいですよね？えへへ…。

…くさくて、いい匂い…でございますか？

ふふっ…変わったお方。

幸せそうにクンクンなさって…本当に、お好きなのですね？

女の子のこういう、恥ずかしい匂いが…。

ふふ、いいえ。受け入れていただけて、うれしい。

正直、不安だったのです。

初めての儀式を…巫女としての役目を、自分にちゃんとこなせるかどうか。

気に入っていただけて、本当によかった…。

旅人様…どうぞ、わたくしの尻に、そそり立つものをあてがって…？

その熱くて、硬いもの…わたくしが包みこんでさしあげます。

ふふ、そう…それじゃあゆっくりと、動かしますね…？

すり…すり…。

すり…すり…。

ふふっ…やわらかいですか？心地よいですか？

わたくしも、あなた様のお鼻が、頭をちゃんと押してくる感触...
ちょっとくすぐったいけれど、暖かくって、心地よいですよ....。

んっ....。

【水のなかでごぼ、おならをする音】 (05分45秒~)

ふー....。

ふふ...あそこがぴくんつしましたね...?

感じますか...?

ぴったりとあてがつた裏のすじを、熱い気泡がなでてゆくのを。

んっ....。

【水のなかでごぼり、とおならをする音】 (06分09秒~)

んふ....。

ふふつ。けれどこれでは...匂いが混ざってしまいますね...?

わたくしの髪から香る匂いと、わたくしの放ったマナの匂い....。

二つの香りが混ざり合って...旅人様のお胸を満たしてゆく....。

すうー...はあー....。

旅人様、幸せそうな息づかい....。

吸って...吐いて....。

あなた様のお力になれること、心より幸せに思います....。

旅人様?

いかがなさいましたか...?

...わたくしに、遠慮なさる必要などございません。

どこかお体が...痛むのですね?

...その、胸元の傷でございますね...?

大丈夫ですよ...どうかわたくしに、お任せください。

すん、すん....。

傷が、熱い....。

どうか大きく、深呼吸なさって....。

そう、ゆっくりと息を落ち着けて....。

ん...ちゅ...れろ....。

ふふつ...心地よいですか...?

いましばらく、ご辛抱なさってください....。

ちゅつ...んむ....。

森を育む母なる力よ、自由なる風の精霊よ。

わが息吹につどい、邪悪なる力をそそぎたまえ....。

ふ----....。

...いかがですか?まだ、痛みますか?

...そうですか、よかったです。

お体が戻って、血がめぐり始めたことで、傷口が痛んだのでしょうか。

...その傷は、魔の傷。

二日前、あなた様が魔物と戦い、その牙にうがたれたところ。

そこから毒が入り込んで、全身を侵していました。

...ふふ、いいえ。感謝していただくようなことではございません。

むしろ、お礼申し上げるのは、わたくしのほう....。

...少し、浅いほうへゆきましょうか。

あまり、お体が冷えてもいけませんから。

どうぞわたくしの手を取って。足元に、お気をつけて....。

【二人が泉を歩く水音】